

# 多彩な視点から学ぶ 伊豆半島の自然と社会

令和6年度 静岡大学公開講座

9/10 (火)

横田 宏樹  
関係のなかで身近な木の価値をつくる：家具の事例から

10/8 (火)

江草 智弘  
森林水文学からみた日本の森林を取り巻く現状と課題

11/19 (火)

日下部 誠  
狩野川アユと放水路の関係について

12/11 (水)

塚越 哲  
狩野川河口部における微小生物の生態～海の水と川の水が混ざるところ～

2/18 (火)

大原 志麻  
静岡における歴史文化を活かした発酵と巡礼ツーリズム

時間:18時～19時30分

会場:静岡大学東部サテライト

(伊豆市青羽根65-1) ※オンライン配信あり


受講料:500円

静岡大学東部サテライト

TEL:0558-79-3500

MAIL:izu-info@adb.shizuoka.ac.jp

後援:伊豆市教育委員会





9/10 tue

## 横田 宏樹



静岡大学  
人文社会科学部 准教授  
専門: 地場産業研究

### プロフィール

1977年滋賀県出身。静岡大学卒業、パリ13大学大学院修了。旭川大学准教授を経て、2018年10月より現職。専門は社会経済学、産地経済学、制度経済学。家具産地を中心にモノを通して自然・人間・産業（経済）が暮らしのなかで密接につながりあった良き社会づくり、に研究者として市民として取り組んでいます。

関係のなかで身近な木の価値をつくる  
家具の事例から

経済成長のために、人間は自然資源を利用してきました。しかし、今、その利用のあり方が根本的に問われています。「地域の木と家具」という視点から、社会における自然と人間の関わり、そして産地および私たちの社会経済のあるべき姿について、みなさんと一緒に考える時間を共有したいと思います。

10/8 tue

## 江草 智弘



静岡大学  
農学部 助教  
専門: 森林水文学、生物地球化学

### プロフィール

1985年広島県出身。7年間に及ぶ研究員生活を経て、2021年より現職。専門は森林水文学。森林流域における河川水の流量・水質形成過程や炭素循環過程を研究しています。

森林水文学からみた  
日本の森林を取り巻く現状と課題

進みゆく気候変動の中で、日本の国土の2/3を占める森林には、水資源の保全・土砂災害の抑止・炭素の長期的な蓄積などの多様な公益的機能を果たすことが求められています。しかし日本の森林は、この数十年の不活発な利用に伴い、高齢化が進んでいます。本講義では、日本の森林が今後も公益的機能を十分に発揮できるかどうかを、森林水文学の知見をもとに考えていきます。

11/19 tue

## 日下部 誠



静岡大学  
理学部 教授  
専門: 魚類生理学

### プロフィール

北海道大学を卒業後、ニュージーランドのオタゴ大学で博士号を取得。アイダホ大学博士研究員、ワシントン大学博士研究員、東京大学大気海洋研究所助教、静岡大学理学部准教授を経て、2023年4月より現職。専門は、魚類生理学。

狩野川アユと放水路の関係について  
狩野川は、古くから大雨が降るたびに氾濫を繰り返してきた。1965年に狩野川放水路が完成し、狩野川流域の水害は減少した。しかしながら、狩野川放水路が生態系に与える影響についてはこれまで議論されたことはなかった。本講座では、狩野川放水路の放水がアユの生態系にどのような影響与えているかについての研究を紹介します。

12/11 wed

## 塚越 哲



静岡大学  
理学部 教授  
専門: 動物分類学

### プロフィール

1960年群馬県出身。東京大学助手、静岡大学准教授を経て2010年より現職。専門は動物分類学、進化古生物学。微小甲殻類である貝形虫（オストラコーダ）の自然史について研究している。現在は静岡大学キャンパスミュージアムの館長を併任し、当ミュージアムを大学と地域を結ぶ「核」にしたいと考えている。

狩野川河口部における微小生物の生態  
～海の水と川の水が混ざるところ～

伊豆半島を涵養する狩野川は、沼津市内をへて駿河湾に注ぐ。この河口部に生息する貝形虫類のうち、砂の隙間に生きている間隙性貝形虫について、豪雨時の出水にさらされてどのように生活しているか、その特異な生態について解説する。

2/18 tue

## 大原 志麻



静岡大学  
人文社会科学部 教授  
専門: スペイン史

### プロフィール

1974年広島県出身。日本学術振興会特別研究員を経て、現在静岡大学人文社会科学部教授。発酵とサステナブルな地域社会研究所所長。専門はスペイン史で、最近では主に聖地巡礼と食文化史を研究。

静岡における歴史文化を活かした  
発酵と巡礼ツーリズム

バスク地方はイベリア半島の辺境、ピレネー山脈西端に位置し、耕地面積が僅かなため歴史的に食糧が欠乏していました。またスペインからの分離独立を目的としたテロ活動により負の印象が喚起されてきました。しかし今日バスクは世界の美食の都となり、世界遺産サンティアゴ巡礼路を整備し、観光GDPは日本の50倍です。バスクの先進事例をふまえながら伊豆石の石切り場や修験道、発酵文化の復刻などから伊豆の観光の可能性について考えていきます。

### 受講料

500円（受講回数、対面・オンライン問わず500円、後日振込用紙を送付いたします。）  
※郵便振込となります。振込手数料は受講者負担とさせていただきます。

### 申込方法

電話・FAX・インターネットのいずれかによりお申し込みください（先着順、対面20名、オンライン90名）。  
電話: 0558-79-3500（平日10:00～16:00）  
FAX: 0558-79-3201  
※氏名（ふりがな）、郵便番号、住所、年齢、電話番号、メールアドレス、参加を希望する回を明記ください。  
※インターネットでの申し込みは下記QRコードもしくは  
<https://forms.gle/oHzAoXusEgbgQH9T7>  
よりお申し込みください。  
※オンライン受講を希望される方には、開催日前にメールにて視聴情報を案内いたします。



### 申込期間

4月1日(月)～5月10日(金)